

# 洋上救急が累積800件を達成しました

平成26年9月22日午後4時50分頃、フィリピン東方沖（那覇の南約1,650キロメートル）をオーストラリアから名古屋向け航行中の日本籍 LNG タンカーから第十一管区海上保安本部に対し、同船日本人船員（25歳、男性）が作業中に負傷し、左足踵部に裂傷を負った、急速に医療機関による診療を要するとの医療助言を受けたことから洋上救急の要請がありました。

第十一管区海上保安本部（那覇市）では、発生海域が遠距離であることから海上自衛隊に災害派遣要請を行うとともに、沖縄県島尻郡八重瀬町所在の特定医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院に医師の派遣を要請しました。

9月23日午前6時40分頃、医師、看護師各1名同乗の海上自衛隊の救難飛行艇 US-2 が那覇航空基地を出発、同日午前10時00分、那覇の南約1,000キロメートルにおいて該船と会合、負傷者を収容、同日午後1時08分、那覇航空基地に到着、救急車により南部徳洲会病院に搬送されました。

本事案により、「洋上救急」の発動件数が、昭和60年10月1日の洋上救急制度発足以来約29年間で累積800件に達しました。

800件までの間に、海上保安庁からは572隻の巡視船艇、996機の航空機及び565名の特殊救難隊員等が出動し、自衛隊からは291機の航空機が出動しています。

また、全国の洋上救急協力医療機関（現在141病院）から1,531名の医師・看護師等が派遣され、洋上で発生した傷病者830人に対し、応急医療を行いました。

## 【800件までの足跡】

発生第 1 号	昭和 60 年 10 月 11 日
第 100 号	平成 元年 5 月 6 日
第 200 号	平成 3 年 11 月 22 日
第 300 号	平成 6 年 9 月 6 日
第 400 号	平成 10 年 10 月 1 日
第 500 号	平成 14 年 10 月 1 日
第 600 号	平成 18 年 1 月 17 日
第 700 号	平成 22 年 7 月 18 日



LNG タンカーの救命艇から患者を収容する  
海上自衛隊救難飛行艇 US-2 のゴムボート  
（飛行艇から撮影、海上自衛隊提供）